

令和2年度 狭山市立山王小学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※【評価の目安】

- A:よくできている。(90%以上)
- B:概ねできている。(85%以上)
- C:あまりできていない。(70%以上)
- D:できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から
			評価	説明	評価(文章表記)
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・山王小の「あいえお」は、明確でわかりやすく浸透できた。学校教育目標の達成に向け児童・教職員・家庭・地域等に朝会や会議・懇談会等でわかりやすく説明した。 ・配慮を要する児童への協力体制が構築できている。職員は相互に尊敬しあう風潮があり、雰囲気も良く仕事への意欲に繋がっている。職員評価(4点満点中3.81)	<ul style="list-style-type: none"> ・校長を中心にまとまった組織は、左記のとおり尊敬し合い雰囲気が良くなる。そのような職場は、若い人材が伸びる。放課後等の教材研究を充実させ力を磨いてほしい。 ・コロナ禍は、続く。現状、よく対応できている。 ・先生方の雰囲気良く、学校全体が過ごしやすい環境になっている。 ・子供たちの調査によると、清掃に関しての評価が高いのが良い。 ・休校のため学習計画が大きく見直し、学習内容・学習時間の確保など職員が工夫して取り組んでいた。 ・ソーシャルディスタンスを確保するため、視聴覚室などを活用し学習環境の整備をするなど感染拡大の防止に取り組んでいた。 ・配慮を要する児童の対応を校長自ら行っている場面も見受けられ、それぞれの職員が柔軟に寄り添い連携が取れている。 ・「あいえお」のような、低学年にも分かりやすい合言葉があることはとても良いことだと思う。 ・清掃や給食等の生活の約束については、校区の小中学校で出来る範囲で統一できると良い。 ・保育現場から見ても、年々配慮を要する子が増えつつある。それに対応するための職員協力体制が整っていることは安心できる。
	2	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・教職員も児童と共に清掃活動を行い、見届けができています。無言清掃を徹底させていく。 ・学校の安全・安心に関して細心の注意をはらっている。コロナ禍への対応は、困難であったが、職員で協力・工夫して対応出来た。(4点満点中3.52)	
	3	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	・コロナ禍で縦割り清掃が実施できなかったり、長く掃除が出来ない期間があったりしたが、比較的整美された状態が保てている。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B		
学習	5	教師は、研修に主体的に取り組む、指導力の向上に努めている。	B	・ITCの活用や具体物を使った授業を通して、興味関心を持たせ楽しみながら授業を進めた。 ・保護者アンケート(わかりやすい授業をしている89%) ・各種の学力調査を分析し、指導改善に努めている。今年度は、道徳科で考え議論する道徳の授業実践に取り組んだ。また、学年で連携して、少人数授業に取り組んだ。少人数担当が補習をするなど個に応じた指導を進めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語が高学年では外国語活動ではなくなった。中1の授業を参観すると良い。児童が中学に関心を持つためにも有効。 ・SKYMENUやEライブラリーは、よく出来ている。先生方が工夫して教えることが一番価値が高いと思う。 ・「分かりやすい89%、残りの11%が悩んで考えられれば丁度よいバランスだと考えます。 ・宿題は厳密には家庭学習とはいえないが、家庭学習の習慣が72%なら良いと思う。 ・コロナの影響で年度前半に授業が出来ず平常時に比べて指導に戸惑いがあったと思う。学力調査を見る限りうまくリカバーが出来ていると思う。 ・全体的に落ち着いて授業が出来ていると思う。 ・家庭学習については、家庭によって差があるように感じている。 ・授業に良い緊張感があった、児童が落ち着いた雰囲気の中集中して取り組んでいた。 ・朝自習時に国語・算数の問題に取り組んだことが、一部成果として表れている。 ・家庭学習の習慣については、それぞれの家庭環境で格差が生じる。引き続き家庭との連携を進める必要がある。 ・一部の学年で行われている、自学ノートを掲示(他の児童の見本となるような学習)したり、一冊終わることに表彰したりするような意欲を高める工夫を学校全体でする必要がある。 ・家庭学習の充実は中学校でも課題。 ・コロナ禍での生活で、学校での学習・家庭学習の習慣が多少乱れたのは否めない。職員の指導力を活かし、難しい環境下でも改善が進むことを期待したい。
	6	教師は、児童がわかりやすい授業を実施している。	B	・どのクラスの児童も落ち着いて話を聞くことができているが、やや課題のある児童もいる。	
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B	・埼玉県学力学習状況調査で、5・6年生ともに「学力の伸び」が、県及び狭山市の平均を上回っており、学力を伸ばすことが出来た児童が多い。特に6年生は、平均正答率も昨年度に比べて大きく改善されている。 ・家庭学習の習慣についての保護者アンケートは72%と課題がある。家庭と連携し、継続した声掛けをしていく。	
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。	B		
	9	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。	B		
規律ある態度	10	児童は、進んであいさつをしている。	C	・あいさつの項目は、様々な取り組みの成果が出てここ数年改善傾向であったが、コロナ禍の影響で取り組みが出来ない・マスクの着用・大きな声の禁止などで著しく悪化してしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクやソーシャルディスタンスの中での規律ある態度が大切。それが顔が見えない中での信頼関係構築に繋がる。顔が見えない中でも、人の気持ちを考えることが必要。まずは、先生方・教職員で練習してほしい。 ・言葉遣いについては、確かに改善がみられるように思う。 ・児童の様子を見ると、時間や決まりについて意識している児童が多いと思う。 ・いじめについては、私の知る限りでは聞いた事がなくしっかりとやれていると思う。 ・進んであいさつができる児童と、そうでない児童がいるが、根気よく声かけする必要がある。 ・「自分からすすんで元気よく」というあいさつは、なかなかできる子供はいないようだ。中学生も同じなので地域全体の課題なのかもしれない。小中で共通の重点課題にした。 ・あいさつの励行とコロナ対策は相反する部分がある。子供達にとっても戸惑いや困惑があったと思う。あいさつの大切さを伝える取り組みを継続していけば成果が出てくると感じている。
	11	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	B	・児童の丁寧な言葉遣いの意識は、87.2%(県学調アンケート)であり、埼玉県の達成率86.9%を超えることができた。引き続き改善に努め、優しき思いやりのある言葉遣いを徹底していきたい。 ・「授業開始時刻を守るの意識」96.8%(県平均93.7%) 「集団の場での態度」88%(県平均83.2%)	
	12	児童は、時間や決まりを守って生活している。	B	・「掃除、美化活動での意識」91.3%(県平均87.8%) すべて埼玉県の達成率を超えることができた。	
	13	教職員は、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A	・学校生活アンケートなどを適切に活用し、情報の早期共有、保護者との連携でいじめの早期解決・未然防止が出来た。	
健康・体力	14	学校は、児童の体力を高めている。	B	・コロナ禍で朝マラソンや体育での運動制限が行われている中での体力向上は、困難を極めた。 ・本年度は、新体力テストの集計が行われず、苦手・得意を基にした計画的な取り組みが出来なかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言のため、外での運動や体育の制限で体力向上は難しかったと思う。 ・健康に対する意識は、今ままで以上に高まっていると思う。 ・教室等の消毒が徹底しており、児童への手洗いうがいの指導も丁寧だった。 ・学校で体力づくりに向けて取り組んでもらい感謝している。 ・コロナ禍での子供達の運動不足は全国的な課題であり、致し方ない面がある。少人数・分散・時間割の工夫等で対応すると良い。 ・外出自粛や運動不足が、生活リズムの乱れにつながることはやむを得ない。これからのコロナ禍で、どう意識を変えていくかを子供・保護者に発信していく必要がある。
	15	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	B	・「業間は原則外遊び」ルールを今年度は設定していないので、外遊びが出来ない児童が増えている。 ・生活リズムが崩れてしまっている児童が増えているように感じる。(寝不足・朝食)	
	16	児童は、健康を意識した生活をしている。	B	・マスク、手洗い、うがい、教室等の消毒が徹底できた。	
地域との連携	17	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・様々な制限がある中で、可能な限り発信はできた。(文書・メール) ・コロナ禍で、地域と連携した活動は今年度はすべて中止となった。これをきっかけとしたこれまでの連携断絶が生じないよう、来年度に再構築を行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係は、常に課題。子供を通じての先生像、子供を通じての保護者像となりがちですので、どんどん足を運んで、連絡を密にした。 ・授業参観がない中、文書などで出来る限りやっていたと思う。 ・今後は、このような状況でも地域と連携・研究できる方法を考えていく必要があると考える。 ・教育活動に対し、保護者から評価と信頼を得ている。 ・なかなか学校に行くことはできないが、学校の取り組みや様子をたよりなどで知ることが出来た。 ・地域連携の停滞は、コロナ禍の中で命と健康を優先させるためには、やむを得なかったと思う。 ・幼保小連絡会、学校見学等、安全な環境下でのご対応、ありがとうございました。
	18	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B	・どの教職員も保護者等と連絡を密に取り合い、連携し、保護者の信頼を得ている。	
	19	学校は、幼保中と連携し、なめらかな接続に心がけている。	B		